

勿凝学問 347

僕と政治学者の違い、再考
北大シンポ再考をきっかけとして

2011年1月16日
慶應義塾大学 商学部
教授 権丈善一

一昨年の政権交代後、僕は、「僕と政治学者の違い」という文章を書いている。

- 勿凝学問 253 [血祭りやだまし討ちにかかわるのは僕の仕事ではないんだよ——それが僕と政治学者の違いかな](#)

この文章を書いて数ヶ月後の2009年12月に北大の宮本太郎先生と一緒に、その時、宮本先生が講演をされている間、なるほど政治向きの話が今日はベターだなと考え、パワーポイントを作り替えて、講演では、次のような思いっきり政治の話——内容的には宮本先生と逆向きの話——をしている。

- 勿凝学問 273 [2008年新春に予測した三つ巴の論戦、その後——天皇誕生日の講演での、「選挙権を国に返上する権利を認めてもらいたい」の意味](#)

この講演をフロアで聞いていた宮本先生から、シンポジウムの終了後、(あの時は、政権交代から3ヶ月くらいしか経っていなかったはずなんだが)「落胆している山口二郎さんを励ますために、シンポジウムを企画したいと思いますから、その時はよろしく願います」と言われる。

そして、その企画が実現されたのが、昨年(2010年)の11月17日にルポール麹町で開催された[北大シンポ](#)である。この北大シンポに、わざわざご遠方の雪国から上京して出席された方より、今日、メールが届く。

下記、さようですか(笑)。

雪の中、書店に出掛け、週刊東洋経済1月15日号の「経済を見る眼」に吉川先生を発見してつい購入。自宅で読んでいると山口二郎先生の「2011年の政治展望」を発見。うーむ、と思っていたらhamachanのブログで紹介されていました。

<http://eulabourlaw.cocolog-nifty.com/blog/2011/01/post-ec38.html>

『と若干都合よく話を進めていますが、まあ、まさに数年前は「政府自民党が政策

実現を掲げ、民主党が政局を追求」していたわけで、その時に政局追求の民主党を力の限り応援していた政局至上主義者の政治部記者たちや、とりわけある種の政治学者や政治評論家諸氏がそう都合よく政策主義者に身を翻してくれるかどうか、いささか疑問もありますけどね。』

ついで先生の HP で「『民主党無策政権の 400 日』の中で特に印象的だった文章。」を見ると、何だかシンクロしているなあと思った次第です。

なるほどね。北大シンポの時も、その後、NHK日曜討論でも仰ってましたけど、山口先生は、鳩山内閣は友愛とかの理念を掲げていたから、まだよかったと思われているようで、次の文章にあるように、当方とは、何かが根本的に違うのかもしれない。

- 勿凝学問 301 [見えずらい政界を理解する一助に](#)

北大シンポで、山口先生が、なぜ、小沢氏が代表だった「民主党を力の限り応援していた」のかという話をされている中で、「1997年にイギリスに留学していた時に、政権交代をみたもので・・・」と仰っていたのを聞き、僕は、次のように話したんですよ。

1997年、私もイギリスに留学していて、あの政権交代を目の前でみました。ただしあの時、山口先生はオクスフォード、わたくしはケンブリッジで、あの政権交代を体験していますので、オクスフォードとケンブリッジの校風の違いゆえか、その後山口先生と私は、まったく違う考え方をする方向に進んだんでしょうかね（笑）。

かつて山口先生が当時の小沢代表に進言されたという「国民の生活第一」という言葉についても、僕が論じればこうなってしまう。。。

先日、ILO協会に出した原稿の一部・・・ちなみに、八つぁんと熊さんは、ご想像にお任せします。なんだかまじめに論じるのがばからしくなっ

てね マニフェストは財源でウソをつけばその先はすべてがウソになるということを、熊さんや彼の主要な部下たちは分かっていたのに、熊さんは「国民の生活が第一」などと白々しいことを繰り返し、八つぁんに総選挙で圧勝してしまった。もっとも、まさかそこまでウソをつくことはないだろうと政治家を信じていた国民を前にして、あそこまで大ウソをつくデマゴグが現れると、政権交代というのはいつか必ず起こることではあった。熊さんの大ウソを見抜いていた人たちは、いつか起こる政権交代を座して待つしかなかった。

ちなみに、次は、僕も参加した日本医師会の[医療政策会議の報告書](#) (2009年1月)の中の、山口先生の文章(7頁)より——4頁もみておいてくださいな。

2005年の総選挙の直前の時期から小沢前代表と議論する機会を得たが、その議論の中で、新自由主義的な路線は必ず行き詰まるから、いまから民主党はその準備をしておくべきだと主張した。とくに、格差不平等問題と社会保障の崩壊という大問題について、民主党が政策を出せば必ずチャンスが来ると言う、小沢前代表もこの点はきわめて的確に理解した。このような認識の下に、2006年3月に代表に就任した小沢氏が打ち出したのが、「国民の生活が第一」というスローガンであった。以後、民主党はこのスローガンの下に結束して、2007年の参議院選挙で勝利し、自民党政権を追い込み、2009年の総選挙で勝利した。

この間、僕はどのようなことを書いているか。

- 勿凝学問 178 [度を越えた官僚叩きという小泉路線の一番の後継者は小沢民主党だろう——小泉氏引退表明の日](#)

そして、総選挙直前には、僕の文章の中で、静かなる革命戦士の言葉がはじめて出てくる次を書く。

- 勿凝学問 240 [みんなよくガンバッタよ、日医が自民の負担増路線を支持する時代になったんだもん——この国ではじめて社会保障の機能強化のために代金の支払いを国民に求める総選挙が行われる](#)

山口先生が「2009年の総選挙で勝利した」と感慨深げに書かれている2009年8月30日、僕は次の文章を書く。

- 勿凝学問 249 [さて、ようやく終わったから、もういいだろう](#)

そして、

- 勿凝学問 253 [血祭りやだまし討ちにかかわるのは僕の仕事ではないんだよ——それが僕と政治学者の違いかな](#)

山口先生と僕、はたしてどこが根本的に違うのか？

財源の話が伴わないかぎり、僕は政治家が口にする美辞麗句になんら心がときめかない冷めた奴だということだろうな（他にも政治家の言う社会保障の抜本改革案というものの細部での矛盾が、僕には見えてしまうという特徴もある）。

とにかく、[昨年の12月21日](#)に書いているように、研究者は政治家がつけいるスキを無防備に作りすぎである。北大シンポの時にも話したように、政治家ってものは、学者のお墨付きがないとなかなか動けないもの。お坊さんがいないと葬式ができないようなものな。んだから、財源の裏付けのないことを言っている政治家には学者がオフサイドトラップをかけて協力しないでいれば、政界はかなり改善するのである。。。次の「11月に出席したいくつかのシンポジウム」の最大の原因が、北大シンポであることは言うまでもなし。

11月に出席したいくつかのシンポジウムで、日本の社会保障がこういう状況になったのは、それが財源の問題だということを理解できないままに論じてきた社会保障学者があまりにも多く、**彼らは政治家がつけいるスキを無防備に作りすぎたこと**に大きな原因があったということをしみじみと感じ、ちょっと腹を立てていたからであつたりもする。貧困問題も、労働市場政策も、財源問題。次などをどうぞ。

- 勿凝学問 254 [貧困の減らし方](#)
- 勿凝学問 291 [民主党にマニフェストの愚直な実行を求めるということは、どういう意味なのだろう？](#)
- 勿凝学問 272 [政策の制約条件としての財源——制約条件と接点さえ持たない政策が羅列された冊子はマニフェストとは言わないんだよ](#)

お手すきの方は、北大シンポの翌々日[昨年の11月19日](#)に書いている、一億総歯科医師連盟化、民主主義原理主義というのもみておいてくれ。特に、

一億総歯科医師連盟化

- シンポジウムの前日に、コーディネーターの先生から翌日の論点のひとつとして次の質問が届く。「1、民主党政権を評価する 社会保障と雇用にかんして、政権交代後、よくなった点、停滞している点、悪くなった点」。これについて、質問の意味がよく分からなかったのだが、シンポジウムの途中で合点が行く。世の中の人々は、自分が最悪にしているお目当ての給付が増加したばあい、それをよくなった点と判断するらしい。もし、財源の問題を抜きにして、お目当ての給付の増加のみをみて、よくなった点と評価するとい

うのであれば、それは、一億総歯科医師連盟化と同じ——だと思ふ。

最後にあの日、山口先生ばかりに批判の矛先が向かうようにシンポジウムが進められていたけど、それは、山口先生にとってかなりお気の毒だったと僕は心底思っていました(笑)。シンポジウムが終わって、出席していたゼミの学生がすぐに一言、「先生、宮本先生と山口先生は仲悪いんですか?」と真顔で僕に質問(笑)。

北大シンポの翌週、11月24日に、飯尾潤先生から研究会に来てくれとのメールが届く。

小職がおります内閣情報調査室研究部では現在、政策研究大学院大学の飯尾潤先生を座長に、我が国の様々な政策課題をテーマとした少人数の研究会を開催しております。

・・・

このたび飯尾先生と研究会について相談しました中で、飯尾先生から「権丈善一先生に研究会にお越し頂き、社会保障制度の全体像、諸制度の連関等を中心に御高話を頂ければ大変有難い」との御話がありました。

当方からの返事。

まあ、去年の総選挙以降、よほど親しい人からのお誘い(出頭命令?)でないと、出かけないことにしています。

何を話しても、何がどうなるわけでもないですからねえ(笑)。

次でもご参照くださいませ。

[さながら、社会保障政策論の暗黒時代ってところだな](#)

ということで、今回の件は、お断りさせていただきますね。

付録——HPを北大シンポで検索すると、結構重要な**キーワード**が出てくるね

2010年10月29日

もうすぐ定員に達するらしいぞ > ゼミの学生さんたちよ

- 北大シンポジウム「[社会保障と雇用をどう立て直すか?——政権交代と政策転換](#)」

う〜ん、『[社会保障の政策転換](#)』という本を書いた僕的には、政策転換は当の昔に起こっていて、政権交代はそれをむちゃくちゃに破壊したわけで、それで、今ようやく、破壊される前の軌道に戻す道が模索されているだけのように、みえるんだけどね。

今日届いた連絡

有識者会議っていっても、すでに結論は出ているというのに、
一体彼らは何をしたいんでしょうか・・・。
これも民主主義の運営コストなんですかね???

だな。でもまあ、「新しい年金制度」ではもの足りず、「真新しいピッカピカの年金制度」
なんかが、飛び出してくるかもしれないぞ（笑）。もしそうなれば、それこそ「一体彼ら
は何をしたいんでしょうか」になるけどね。

2010年11月17日

本日は、

- 北大シンポジウム「[社会保障と雇用をどう立て直すか？——政権交代と政策転換](#)」

お暇な人は、昨年末に書いた、次などもどうぞ。

- 勿凝学問 277 [もう一度言うておくけど、足りないのはアイデアではなく財源なんだよ——くっだらな「新」成長戦略の作成に付き合わされて大変だったな、みんな](#)

11月18日

昨日のシンポジウムで宮本先生に、「**民主主義の成熟化**について」問われたとき、僕は
「私とは問の立て方が違うんですよね」と答えたわけですけど、僕にとってははなっから、
民主主義は成熟したり進化したりするような代物ではない。昨日ご出席の方は、下記、福
澤諭吉が生きていた時代から現在に至るまで、民主主義がどのように推移したかを語った
文章でもご参照ください。

- 慶應義塾大学通信教育部入学式特別講演（4月29日）
「[”この人民ありてこの政治あるなり”の今日的な意味合い](#)」『三色旗』749号（2010
年8月）

負担を論じることは給付を論じることだと話したことは、次にあります。

- 勿凝学問 316 [野党に助けを求めらうんだから与党も譲ってあげないとね——負担を論じるということは給付を論じること](#)

園田博之さんの「みんなでやりましょう」という呼びかけの話や「新党抜け駆け」の話が出てくるのは次の文章。

- 勿凝学問 310 [「日本の経済・国民生活を守る仕事に就く者たちが挙国一致で取り組むべき課題」の意味](#)

「与野党でやると言う意味はね、与党だけを悪者にしませんよという、そういうことなんです。 (増税を) 具体的に提案すると、国民は喜ばないですよ。そこを与野党ともに罪は一緒にかぶって、日本の国の将来のためにやりましょうということにしないと、実現しませんよ」

昨日話した[オフサイドトラップ](#)の話がのっているのは、次の文章です。昨日も言ったように、政治家ってものは、学者のお墨付きがないと、なかなか動けないものなんです。[坊主がいないと葬式ができない](#)ようなもんかな。。。

- 勿凝学問 192 [シミュレーションは使い方で役割が変わる——社会保障国民会議少子化分科会でのやりとり](#)

小泉さん引退表明の日に書いた文章。

- 勿凝学問 178 [度を超えた官僚叩きという小泉路線の一番の後継者は小沢民主党だろー——小泉氏引退表明の日](#)

最後に、僕の政治学者観・・・昨日の濱ちゃんさんの切り込みは最高でした (笑)。

- 勿凝学問 253 [血祭りやだまし討ちにかかわるのは僕の仕事ではないんだよ——それが僕と政治学者の違いかな](#)
- 勿凝学問 310 [見えづらい政界を理解する一助に](#)

あつ、あのですね。[hamachan ブログ](#)にあります、次の言葉は、僕の発言ではないですからね” (・_・;) ”。切り込み隊長のお言葉です、はい。

「一部の政治学者と、多くの政治評論家と、大部分の政治部記者が諸悪の根源」

まあ、この言葉に続く、「彼らは各論や細部を知らない、そして知らないことを分かっている」とのご発言に、僕は思わずフロアから拍手をしてみましたけど・・・。なお、僕は、シンポジウム時の山口先生の (政権交代は) 「やってみなければ分からなかった」という言葉を受けて、「[それではこれより、政治学者への批判をはじめさせてもら](#)

います」とお断りした上で発言させてもらいました。。。

出席していた学生（および卒業生？）は「ハラハラしました」と言っていたから、ご来場の方々には次のシンポジウム以来のおもしろさだったかもしれませぬ。

- 自治体病院全国大会 2007 「[地域医療再生フォーラム](#)」講演録

2007年11月7日開催

講演Ⅰ 「医療制度改革の方向」

国際基督教大学教養学部 教授 八代 尚宏 氏

講演Ⅱ 「医療崩壊をめぐる政治経済学—いま何が起きているのか？」

慶應義塾大学商学部 教授 権丈 善一 氏

ちなみに、この自治体病院全国大会は、例年、大会の冊子を作ったりしないらしいのですが、あの時は特におもしろかったらしく、記念に残すために、冊子を作る予算をつけましたといった連絡がきておりました（笑）。昨日と2007年の自治体病院全国大会、Pは、両方に出席していたことになるな。あの時も、予約の段階から会場は満杯になってしまって、結局、別室に部屋が準備され、当時4年生だったPたちは、そこで映像をみながらの鑑賞だったっけな（まあ、今回は昔と違って、ちゃんとした社会人らしい服装で来ていたけど・・・）。

半休を取ったかいがありました。

先輩と同期も休みを取って来ていました（笑）

さようか（笑）。

それと、昨日ご来場されていた前財務副大臣と僕との紙上対論もご参考までに。

- 新聞記事版 「[社会保障の財源どうする？](#)」『産経新聞』2009年7月10日 権丈 vs(?) [峰崎直樹氏](#)

11月19日

一昨日来、頭から離れないことをメモ

- **一億総歯科医師連盟化？**
 - シンポジウムの前日に、コーディネーターの先生から翌日の論点のひとつとして次の質問が届く。「1、民主党政権を評価する 社会保障と雇用にかんして、政権交代後、よくなった点、停滞している点、悪くなった点」。これについて、質問の意味がよく分からなかったのだが、シンポジウムの途中

で合点がいく。世の中の人々は、自分が最前線にしているお目当ての給付が増加したばあい、それをよくなった点と判断するらしい。もし、財源の問題を抜きにして、お目当ての給付の増加のみをみて、よくなった点と評価するのであれば、それは、一億総歯科医師連盟化と同じ——だと思う。次なども、そうした視点の典型だろう。

- 勿凝学問 291 [民主党にマニフェストの愚直な実行を求めるといことは、どういう意味なのだろう？——うん、まあ、歴史上の記録として、一応、書き留めておきますね](#)
- ちなみに、昨日使ったスライド「各論賛成総論反対政策——囚人のジレンマの制度化」は、歯科医師連盟に呼ばれたとき、あなたたちがやっていることは、こういうことですよと示すために作ったものです。。
- 勿凝学問 314 [囚人のジレンマの制度化は、何が問題なのか？——歯科医師連盟で説明した社会保障の周りで起こっていたこと](#)
- **民主主義原理主義？**
 - 形式的に整えられた民主主義は、自ずと正しい政治・政策を帰結するものであり、日本では政権交代が起こっていないのだから、それは成熟した民主主義ではなく、したがってそこで行われる政治・政策は間違っている——もし、そういう論理が成立するのであれば、それって、経済学の世界でしばしば言われる、市場原理主義なるものと同じ思考回路だろうな。
 - 僕のような政策技術屋からみれば、政権交代なんかどうでもいいわけで、とにかく、ポリティカルには難しくとも、技術的にみてまともな政策を実行するだけの力を持つ「**強い政治**」を求めるだけ。「強い経済、強い財政、・・・」と言ってみても、法案を通す力もない弱い政治は強くならんよ。
ちなみに、日本の政治は、1994年次の政治改革（中選挙区から小選挙区へ）を源とする変化の過程にあり、日本の政党は政党の体をなしていないということは、次に書いています。
 - 勿凝学問 257 [小選挙区とは一神教だよ](#)
 - 2008年10月に行われた日本財政学会での僕の次の発言などもご参考までに。

2010年11月22日

今週も**内閣支持率**に関する世論調査が発表され、それが政治に影響を与えているようなので、内閣支持率に触れた先週の北大シンポのパワーポイントをアップしておきます。スライド66、68に内閣支持率の話が出てきます。

- 「[日本の政治は社会保障を立て直すことができるのか？](#)」北大シンポジウム「[社会保障と雇用をどう立て直すか？——政権交代と政策転換](#)」

2010年12月1日

ふと、思い出したので・・・

10月17日朝のNHK日曜討論。

野口悠紀雄氏が海江田経済財政担当大臣に、（下記の社説にある）**基礎年金の国庫負担**の財源をどうするのかと問う。そこで、大臣は、「その話は今の年金のことでして、我々は全く新しい年金を作るわけですから」とか答えていたな。そういう回答をする人物が大臣だということを考えると、もう笑えない・・・気がする。

ここまで言われると、[10月29日](#)に書いているように、民主党の下にある社会保障改革有識者検討会から、財源なんかまったく不要の最低保障年金とかなんとかいうウルトラ新しい年金を、今月中に提案してくれることを期待してしまうよなあ。

でもまあ、有識者会議のメンバーをながめれば、年金をどうまとめるかについて、事務局の苦勞が目につかぶ（笑）。面目を保ってあげるか意味のある報告書にするか、それともいっそのこと年金には触れないでおくか。

そう言えば、検討会の座長が、与野党が協議する社会保障円卓の騎士、もとい円卓会議の設置を求めた『週刊社会保障』に載っていたな。だけど、野党が社会保障の与野党協議にのるインセンティブはどこにあるのか？と問うのが、政府や政治家を慈悲深い専制君主とは前提しない僕流の考え方。そして、提言や報告書を野党が無下に扱えなくなる必要条件第一歩のロジが、僕が、この件に関して事務局に出した条件だったりしたら、どうなるかな（笑）。

慈悲深い専制君主というのは、北大シンポで説明した政府モデル——スライド2参照。そして、スライド68も。

- 「[日本の政治は社会保障を立て直すことができるのか？](#)」北大シンポジウム「[社会保障と雇用をどう立て直すか？——政権交代と政策転換](#)」

普通、税と社会保障のあり方をめぐって一国内の政党は真っ二つに分かれるもの。その問題を与野党で協議するという事は、みんなが考えているよりも難しいような気がしないでもない。北大シンポで言ったことは、「拒否権を握っている野党の方が交渉上強い。ロジックに従えば、**野党案の丸呑みという道しかみえてこない**ですね。しかしここまで内閣支持率が落ちてくれば、その道さえなくなる。与野党協議というのは、何のかんの言って与党にとって得な話ですからね」。下記、参考までに。

- 勿凝学問 316 [野党に助けてもらうんだから与党も譲ってあげないとね——負担を論じるということは給付を論じること](#) (2010年6月22日脱稿)

2011年1月4日

今日、次のメールが届いたけど、前回出席されていた[北大シンポ](#)のように相手がいるわけではないから、あの時ほどはおもしろくないと思いますよ(￣。￣)ボソ...

今日届いた県医師会報で2月5日に先生が新潟にいらっしゃることを知りました。楽しみにしております。
会報には「当日混雑が予想されますので、公共の交通機関をご利用下さい」と書かれていますが、知り合いを誘います。
TV会議システムで県内数箇所で開催できるはずですが、やっぱり生を勧めます。

[勿凝学問 198](#) に書いている「やっぱりナマがいい」と発言していた御仁は、2月2日の日医のシンポジウムに絶対にくると、僕はみたね(笑)。その後、何度か、一番前に座っているのをみたことあるもんねえ。

でっ、北大シンポが終わった翌日くらいに、次の連絡も来ていたけど、そんなにおもしろかったかな。

北大シンポが終わったとき、私は近くにいた香取さんに「いやー、**これはどんなに高い入場料払っても絶対みたいシンポ**でしたね」と口走ってしまいました。

そう言えば、北大シンポに出席された人から、次の連絡が来てたけど、僕は蛮勇なんか持ち合わせてないよ。。。いつも緻密に計算して渡り歩いてるんだから——おう、ウソっぼい(笑)。

当県は、ご承知のとおり小沢氏の地元でして、知事をはじめ「民主党独裁」ともいえる状況ですが、蛮勇をふるって(?)いただけるのであれば、ぜひ当県でもお話を伺う機会を作りたいと考えております。

ちなみに、この僕を、昨年末の「社会保障改革に関する有識者検討会」のメンバーにしようとして最後は決断した民主党の政治家ってのは、まあ、なかなかだと思うよ、ウン。。。まさに彼らの蛮勇か(笑)。

2011年1月11日

「[政界と税と社会保障](#)」『週刊東洋経済』を読んだ人から、「**今の対立は政治と金をめぐる対立ではないんですか?**」との問い合わせがくる。まあ、そう見える人はそう見ておけばいいだろうし、そういう人には、自民党の中での今の対立は愛知県知事候補者をめぐる対立に見えるんだろうね。

ちなみに、今年の6月6日に書いている、[勿凝学問 312](#)には、次の図がある。

	財政問題を正直に論じて、国難を乗り越えようとするグループ	財政問題でウソをついて衆愚選挙をしかけ続けようとするか、社会保障機能強化を考えていないグループ
与党	民主 菅グループ	民主 小沢グループ
野党	自民 谷垣グループ 立ち上がれ日本 与謝野グループ	自民 上げ潮派 みんなの党 等々

そして、この図の（注）として、次の文章を書いているな。

注) 面白いのは、民主党内の対立グループ、自民党内の対立グループは、互いに烈しく憎み合っており、菅・谷垣間、小沢・上げ潮派・みんなの党間の方が親和性が高いということ。僕が、各政党を海苔巻きのようにまな板の上に並べて、右と左の2つに分ける政界再編の必要性ありと言い続けてきた根拠は、そこにある。日本の政党は、まあ、政党の体をなしていないわけで、民主党の代表選や自民党の総裁選の結果次第で、党の方針そのものが右に行ったり左に行ったり右往左往——有権者にはたまったものではない、政党政治確立に向けた原始的状态。。。

とはいえ、昨年11月17日に行われた[北大シンポ](#)の時には、次のパワポを使ったんだけどね。その後、2004年年金改革の頃から長年にわたって、革命戦士たちが幾重にも張り巡らせてきた仕掛けが、昨年12月の予算編成の中で順調に作動して、与党の政権担当者たちは、徐々に逃げ場を失い、財政問題を正直に論じる位置に追い詰められてきたってわけだ。

付録 現在の布陣 多神教(中選挙区)と一神教(小選挙区)の相違

	財政問題を正直に論じて、国難を乗り越えようとするグループ	財政問題でウソをついて衆愚選挙をしかけ続けようとするか、社会保障機能強化を考えていないグループ
与党	民主 菅グループ	民主 小沢グループ
野党	自民 谷垣グループ 立ち上がれ日本 与謝野グループ	自民 上げ潮派 みんなの党 等々

「勿論学問312 まともな野党が生まれきたというこの国の好機」
2010年6月6日より



先日の入間での公務員研修所でも話したように、とにかく予算というのは強い。年金などは4年後に大抜本改革を行います！と威勢の良いことを言ったり、与野党協議を！と言っては先送りができるけど、予算は毎年立てなければならないわけだから、ごまかすことはできないからね。そのあたりは、次の文章の2頁に書いてます。

- 勿凝学問 293 [それは禁じ手なんだが、残念なことにそれが民主党の常套手段——代替案なき批判は、政治の世界でも研究の世界でも百害あって一理なし](#)